

ふれあいボランティア活動 感想文集



平成 27年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター

平成二十七年 度ふれあいボランティア活動感想文集

発行にあたって

さわやか青少年センターは、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する団体です。

地域社会の中で行うふれあいボランティア体験学習（学校教育における人とのふれあいを重視したボランティア活動を体験する学習活動のこと。以下、V体験学習という）は、青少年が『人間力』を育むに最適な取組みの一つであると考えています。当センターは、その活動を支援するツールとして「ふれあいボランティアパスポート」を学校や団体に提供しています。

「ふれあいボランティアパスポート（以下、ふれあいパスポートという）」は、児童生徒のV体験学習のきっかけ（動機付け）や継続を支援するためのツールとして平成十二年に公益財団法人さわやか福祉財団において開発され、今日にいたるまで全国の小中高等学校、団体等で活用していただいています。（平成二十八年三月現在、一六五校・七団体、四万七千人以上の児童生徒が参加しています。巻末参照）

ふれあいボランティア感想文の募集は、児童、生徒がふれあいパスポートを活用しながら、自分が取り組んだV体験学習について感想文を書いて自らの活動を振り返ることにより、自分の心の変化や成長、他者との共助、内に湧き出る意欲を認め、

確認する機会としていただきたいという主旨で実施しています。第四回目となる平成二十七年 度は、五二六人の小中高校生のみなさんにご応募いただきました。

今年度の選考委員は、昨年度に引続き、「3年B組金八先生」などの脚本家である小山内美江子先生（選考委員長）と三名の方にお願いたしました。（1頁）

ここに入賞者十六名の感想文を掲載させていただきます。

今年から選挙権年齢が満十八歳になり、満十八歳の高校生は投票ができるようになりました。これは、児童、生徒のみならずが地域や社会に関心を持つ良い機会であると考えています。

V体験学習は、児童、生徒のみならずが地域に出て、自ら地域や社会の課題を見つけ、その課題解決に主体的に取り組むことで、学校での学びと地域社会での学びとの統合を図りながら、地域の市民としての自覚を育む教育活動でもあります。

この感想文集をお読みいただいた皆様には、V体験学習によって児童、生徒のみならずの「自助の力」と「共助の力」が大いに育まれることがご理解いただけるものと思います。

皆様の地域の学校、健全育成団体等に、ふれあいボランティア体験学習の実施を働きかけていただけましたら、幸いに存じます。

平成二十八年三月一日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長 有馬 正史

ふれあいボランティア活動感想文
応募総数526点(小学校14校1団体454点、中学校8校1団
体38点、高等学校4校34点)

◇受賞者(同学年の場合五十音順)

【ふれあいボランティア活動大賞】1名

福岡県大牟田市立駿馬南小学校 6年 牧野 紋奈さん

【小学生賞】7名

青森県弘前市岩木児童センター 1年 小山 柚芽さん

千葉県栄町立竜角寺台小学校 2年 飯岡 真大さん

福島県棚倉町立棚倉小学校 3年 齋藤 友貴さん

東京都小平市立学園東小学校 4年 嵐 雅桜さん

福岡県大牟田市立駛馬南小学校 5年 二神 聖吾さん

千葉県栄町立安食小学校 6年 大久保知香さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校 6年 和田 聖麻さん

【中学生賞】5名

福島県棚倉町立棚倉中学校 1年 沼田 南海さん

東京都品川区立小中一貫校荏原平塚学園 8年 佐野 遙さん

山口県山口市立湯田中学校 2年 竹下 心さん

千葉県栄町立栄中学校 2年 松本 理乃さん

山口県山口市立湯田中学校 2年 山口 恭佳さん

【高校生賞】3名

鹿児島県立川辺高等学校 1年 道野 はるかさん

横浜創英高等学校 2年 鈴木 優花さん

東京都立稔ヶ丘高等学校 3年 上久保美涼さん

◇ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

小山内 美江子氏(認定NPO法人JHP・学校をつくる代表 脚本家)

選考委員

高橋 陽子氏(公益社団法人日本ファイランソロピー協会理事)

平岩 国泰氏(NPO法人放課後NPOアフタースクール代表理事)

矢吹 正徳氏(日本教育新聞社編集局局長)

後援 日本教育新聞社

◆ふれあいボランティアパスポート参加校リスト(巻末参照)

◎さわやか青少年センターのホームページにふれあいボランティア
アスパポート参加校及びこれまでの感想文集をご紹介します。
ダウンロードすることができます。

(URL <http://www.ssc-npo.or.jp>)

◆ふれあいボランティア感想文選考委員長

ふれあい感想文より

認定NPO法人JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山内 美江子

ふれあいボランティア活動の感想文に応募されたたくさん
の皆さん、

その中から第一次予選を通過された生徒さんたちの感想文
を拝読させていただきました。

応募された小学生から高校生の最終選考に残った感想文は、

「甲乙つけがたく」と昔の人も真剣になられたお気持ちは、ま
さに私たちの気持ちとまったく同じようなものであると、今回
もその言葉を噛みしめながら、最優秀を選ばせてもらいました。

小学一年生から高校三年生まで“ふれあいボランティア”に
関しては、体験してはじめてわかったことに対して、自分ほど
うなのかと自分と向き合ったことでしょう。

「そうですね、それが生きて行くことにつながるのよ」と声
をかけたくなる思いを、いつも味わいました。応募者の年齢差
はありましたが、それで優劣は決まりません。今回の優勝者は

小学六年生でした。審査の条件に入っていないませんが、文字が大
変しっかりとして、美しいと思いました。ボランティアに参加
した時に得たさまざまな発見、そして反省などのすべてがしつ
かりとした文字で綴られていたことに、審査員たちの胸があつ
くなつたのではないのでしょうか。

牧野紋奈さんにお目出とうと言うと同時に、最後まで優勝を
競い合つた皆さんにもお目出とうと言うと同時に、お年寄りへ
の訪問や、ハンデのある人への何気ないお手伝いを試みてくだ
さい。きっと、その両者にすばらしい交流が生まれると私は思
っております。

◆選考委員

選考を終えて

公益社団法人日本フイランソロピ―教会理事長 高橋 陽子

小学生から高校生までが、ボランティアという同じテーマで
作文を書くという企画自体、興味深い試みであり、いくつかの
示唆を得ることができました。

それほど積極的に始めたものでもないのに、やってみると達
成感・爽快感を感じたこと、一緒にがんばった活動やその時の
思いを仲間と共有できたこと、周囲の大人から感謝の言葉を寄

せられて嬉しかったことなどは、年齢にかかわらず、ボランティアをした人なら誰しも感じる普遍的な感情のようです。こうした感情は、次なる 意志や勇気を呼び起こします。

もつとまうまうできるように工夫しよう、もつと多くの人に喜んでもらったり、より大きな成果を挙げることができるよう、仲間呼びかけよう、などです。その思いと行動が広がり、社会が少しずつ良くなっていくのだと思います。

今後に向けての期待をいくつか書かせていただきます。ボランティアは、さまざまな地域の課題や社会の問題を解決するための活動です。それらを探し出し、その解決のために方法を調べたり、道筋を考え、そのことを周囲の人たちに話したり呼びかけたりしていると、様々な反応が返ってきます。その中から思わぬ可能性も見えてきます。その年齢に応じてさまざまな学びがありそうです。自分とは違う意見や考え方にも出会うことで、学びも深まります。ボランティアは、誰にとつても、年齢を超えて関わり仲間を拓げることでできる大事な機会だと思います。

一歩踏み出す大切さ

NPO法人放課後NPOアフタースクール代表理事

平岩 国泰

皆さんのボランティアの作文をととても嬉しい気持ちで読みました。初めからやる気満々だった子も、最初は気の進まない子もいたようですが、結果的に皆さんが非常に貴重な経験をされたことを感じました。これからも皆さん自身がボランティアを継続してほしいですし、また友達や家族なども誘ってボランティアの輪をぜひ広げていってほしいと思います。

今回のボランティアは、皆さんが一歩踏み出して、新たな挑戦をしたことで実現しました。そしてその結果として大きな学びがありました。これからの人生においても新たな機会があればぜひ「挑戦」を選択してみてください。

そうして一歩ずつ「やってみよう!」を繰り返すときつとそこには学びがあり、「やめておくか…」を選択し続けることと大きな差が出ます。そんな「一歩踏み出す大切さ」を皆さんが今回のボランティアを通じて感じてくれれば、ますます意義ある体験になったと思います。

皆さんこれからもたくさん経験をして、豊かな人間性あふれる大人になってください。本当にお疲れ様でした。

志を持つボランティア仲間と手をつなごう

日本教育新聞社編集局長 矢吹 正徳

はじめはいやだった、めんどうくさいと思った。こんな気持ちを抱えたまま、ボランティア活動に参加することで、とてもいい気持ちになった、うれしかった、これからはこんなふうにしていきたいと、積極的な気持ちに変わる様子が、「ふれあいボランティア活動」の感想文から、良く伝わってきました。

以前からボランティア活動をしている人、今度初めてボランティア活動を試してみた人と、経験のある・なしにかかわらず、自分の気持ちを見つめ、他の人との関わり方に気づく、「あなた」がいました。

感想文での表現の仕方は、さまざまですが、小学校低学年から高校まで、活動を通して感じることで、学んでいることは共通しているようでした。笑顔の大切さ、人の優しさ、助け合うことの心地よさなどがたくさんつづられています。

できればこれからは、一つのボランティア活動をきっかけに、自分の身の回りを見直して、そこにある課題などを発見し、自ら課題解決のためのボランティア活動に率先して飛び込んでいく。そんな風な成長の道筋があるといいなと思います。

全国各地には、自分たちの身の回りや、あるいは世界の实情に課題を感じて、グループを作ったり、NPOの大人たちに混じったり、あるいは個人として、ボランティア活動をしている中学生、高校生たちがいます。そんな志を持つ仲間たちともこれから出会ってもらいたいと願っています。

受賞作品 *児童・生徒の原文に従って作成しています。

【ふれあいボランティア活動大賞】

地域のお年寄りの方との関わりを通して

福岡県大牟田市立駿馬南小学校6年 牧野 紋奈

私たちは、総合的な学習の時間に、大牟田市の高齢化率が高いこと、中でも、駿馬南校区が上位を占めていることを知りました。さらに、その問題の一つとして、認知症に対する対応が挙がっていることを知りました。そこで、これらの問題に対し、今の私達にできることは何かについて考えました。

五年生の時には、校区にお住まいの一人暮らしの高齢者の方々を訪問しました。短い時間だったけど、おじいちゃんやおばあちゃんはもちろん、私たち自身が温かい気持ちになりました。また、一年を通して、駿馬南小学校全児童で、季節のお便りを出しています。中には、大変喜ばれ、学校にお礼の電話やお手紙をいただくこともあります。

六年生では、一学期に施設の職員の方と一緒に、認知症の方々とどう関わっていけばいいかを自分たちで考え、対応できるように学習をしました。

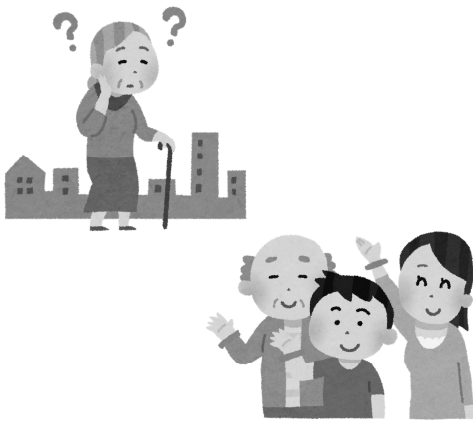
このように、この駿馬南校区が、そして、この大牟田が、もともと住みよい町になるよう、もともと温かい関わりのある町になるよう、十二歳の私たちにできることを考え、取り組んでいきます。

私のおじいちゃんは、数年前に亡くなりました。

「二〇二〇年のオリンピック、一緒に行こうね。」

と約束していたのですが、その夢は叶いませんでした。だからこそ、私たちの身近にいらつしやる方々には、これまでの学習を生かし、本当のおじいちゃん、おばあちゃんのように、やさしく、ゆつくりと笑顔で接していきたいです。

そして、これからも、私たちにできることにたくさん取り組んでいきます。この駿馬南小学校が、大牟田が、もともとと温かい関わりのある町になるために。



【小学生賞】

こどもたちといっしょにあそんだ

青森県弘前市岩木児童センター1年 小山 柚芽

わたしは、ボランティアサークルでほいくえんをほうもんしました。
した。

そこでおおなわとびをしました。せがちよつとたかいおんなの子としました。3年せいは、とばないでなわをまわしていました。おおなわとびを2りでうまくとべてうれしかったです。ほいくえんのこどもたちはよろこんでいました。よろこんでもらえてうれしかったです。

かみしばいは6年生は、じょうずによんでいました。こどもたちは、おもしろいかおをしてみていました。みんないっしょけんめい6年生のかみしばいを、みていました。

メッカチンをしました。メッカチンは、むかしからあったあそびで、ビーだまをおとすあそびです。これはちよつとむずかしいあそびだったけど、ビーだまを1つとれた人もいました。2ついじょうとれた人もいました。こんなにとれるとおもわなかったけど、すぐとっていました。

メッカチンのあとには、てづくりのはこをあげました。こどもたちは、プレゼントをよろこんでいました。

ボランティアは土よう日にあるいていってきました。センターからまつちほいくえんまでは、とおいけど、あるきました。ひさしぶりにあった子もいました。

ボランティアになぜ入ったかは、いっかいやってみたいなともったからです。ボランティアはほいくえんでもやっていただけ、センターでしたボランティアのほうがちよつとむずかしいです。センターではじめてしたのしかったです。

ゴミゼロウんどうにさんかして

千葉県栄町立竜角寺台小学校2年 飯岡 真大

ぼくは、竜角寺台のゴミゼロウんどうに、妹といっしょにさんかしました。家からスタートして近くゴミをひろい公園に、ゴミをあつめます。

歩きはじめるとすぐに、ゴミがおちていました。いつも通っている道なのに、気をつけて見てみると、たくさんゴミがおちています。まず、あきカンがたくさんありました。その中には、のみかけのジュースが入ったカンもありました。自どうはんばいきの近くにはゴミばこがあるけれど、歩きながらのんでいてすてしまったのかなとぼくは思いました。もつと、ゴミばこをふやせば、ゴミをすてる人はいなくなるのかな。近くに、こんなにたくさんゴミがおちているのを見て、ざんねんな気もちになりました。

でも、ぼくが一ばんびつくりしたことは、タバコのすいながらもたくさんおちていたことです。子どもたちが、あそんだり、通る道にタバコがおちているのは、きけんだと思います。もし、火がついたままのタバコをすてしまったら、火じなど大へんなこと

がおきるかもしれません。タバコをすう大人の人もマナーをまもってほしいです。

このゴミゼロうんどうにさんかして、きれいだと思っていた竜角寺台にも、たくさんのゴミがおちていることを知りました。一人一人が、ゴミをゴミばこにすてるように、いしきすることで、これからも竜角寺台がきれいで、みんながすみやすいまちになると思います。そして、ぼくはこれからも、せつきよくてきにゴミゼロうんどうにさんかし、いつもきれいな竜角寺台であればいいなと思っています。

ボランティアをして考えたこと

福島県棚倉町立棚倉小学校3年 齋藤 友貴

わたしは、休みの日にお母さんと家の近くの公園までさん歩に行くことになりました。外に出ると、とても天気よかったです。ボランティアパスポートのことを思い出して、ゴミ拾いしながら行くことにしました。

ぐん手をして、ビニールぶくろを持って、はりきって出かけて行きました。

公園までの道は、広い道路で車がたくさん通るけど、ゴミはあまり落ちていませんでした。お母さんとグリコじやんけんをしながら歩いて行きました。わたしは、あまりゴミは落ちていないのかなあと思いました。

公園に着くと、さっそくゴミ拾いを始めました。大きなゴミ

ミは落ちていなかったけど、たばこのすいがらとガムのつつみ紙がたくさん落ちていました。わたしは、小さいゴミだからいいやと思っているのかなあと思いました。木にビニールぶくろがしばられているのも見つけました。木がかわいそうだなあと思っただいてあげました。

帰りは、コンビニの近くの道を通りました。すると、びつくりするくらいたくさんのゴミがありました。ざりがにがいるそっこうや草むらにあつて、自ぜんがこわされてしまうと思いました。わたしは、ボランティアをして、いろいろなことを考えました。まずは、公園や道路にゴミをすてる人がいなくなると思いいなあと思いました。みんなが同じ気持ちになれば、町はきれいになると思います。

それから、ゴミ拾いをする、とてもいい気持ちなることが分かりました。きれいになった公園を見て、うれしくなりました。ボランティアって、ちよつと楽しいんだなと思いました。

ボランティアは、だれかのために何かをしてあげることだと思っただけでなく、だれかのためだけにやなく、自分のためでもあることに気づきました。



ボランティアをしてせいちょうした私

東京都小平市立学園東小学校4年 嵐 雅桜

私は、ボランティアをしてせいちょうしたなと思った体験は、ガイドヘルプ体験と、点字体験です。

まず、ガイドヘルプ体験の説明からします。ガイドヘルプは、目が悪い人のかわりに、行きたい場所へ、つれていってあげる人です。私は、ガイドヘルプをやってみると、目が悪い人は、かいだんや、だんさがどこにあるか、どんなところにあるか、わからないので、ガイドヘルプの人が「ここにだんさがあります。」などいわなければいけません。せまい道の際は、手をうしろにくみ、目が悪い人は、うしろにくんだうでの所をつかみます。ガイドヘルプをやってせいちょうしたことは、目が悪い人がいたら、手つだつてあげようと思ったのがせいちょうしたと思いました。

次に、目が悪い人になってみました。最初こわくてやだなと思いました。かいだんは、ふみはずしそうでこわくて、だんさは、ころびそうでこわかったです。目が悪い人になってみて、せいちょうしたと思ったのは、自分だけにたよるんじゃないくて、相手にもたよっていいんだと思ったのがせいちょうしました。

次は点字体験です。私は、点字をうってみて思ったことは、強くうちすぎると、やぶれてしまうことです。最初やってみると、強くうちすぎてやぶいてしまいました。この体験で思ったことは、目の悪い人は、こんなむずかしいものをよんでいるんだとかんしんしたことがせいちょうしたと、おもいました。

このボランティアをして一番せいちょうしたことは、人を思いやる気もちです。この、ボランティアは、ぜつたいにやってみようと思ったと思いました。

ボランティアのみなさんに、お礼をいいたいとも、思いました。

高れい者訪問を通して

福岡県大牟田市立駿馬南小学校5年 二神 聖吾

ぼくたち五年生は、九月に高れい者訪問に行ってきました。その高れい者訪問を通して思ったことが四つあります。

一つ目は前向きな気持ちや、明るい性格、そして笑顔が大切だということ。高れい者の方々は、明るく前向きに接してくださったので、とても話しやすかったです。

二つ目はお話をした時に高れい者の方が一緒に笑ったり、話が楽しくなるようにもり上げてくださったり、あいづちを打ってくださったのでぼくは、

「楽しいな、来て良かったな。」

と思いました。話は人の感情を動かす、大切なコミュニケーションだと分かりました。

三つ目はあいさつの大切さです。あいさつをすると高れい者の方も、いつも返してくださるので、ぼくはとってもいい気持ちになります。ぼくが訪問した高れい者の方々が、

「大きな声でいつもあいさつをしてくれてうれしいよ。」
と言ってくくださったのでぼくは、

「あいさつは、人の心をやさしくするカギなのかなあ。」
と思いました。

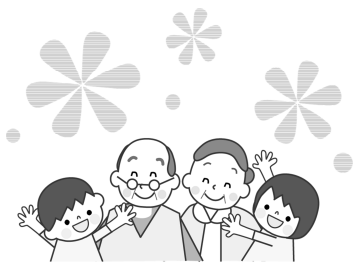
最後の四つ目は長生きしてほしいなあという気持ちです。高れい者の方々は毎日笑顔でとつても心の広い方が多いんだと一番感じました。そんなとてもそんけいできる高れい者の方々にはずつとずつと長生きしてほしいと思います。高れい者訪問をして勉強もスポーツもあいさつもがんばりたいという気持ちになりました。

このきちような経験のおかげでぼくは、おじいちゃんやおばあちゃんそして周りの人にやさしい気持ちで接したいと思うようになりました。

お祭りボランティア

千葉県栄町立安食小学校6年 大久保 知香

私のおじいちゃん、おばあちゃんとお父さんは、一つのお店を営んでいます。そのお店は、毎年行われる「二区の祭り」の休けい所になっています。だから、おみこしをかついで来た人や、だしを引いてきた人達に、お菓子や飲み物、冷たいタオルなどを配



っていました。

私は、お祭りに参加することも多いけれど、当日はお店もいそがしいのでそのお手伝いをほぼ毎年やっていました。そして、このお手伝いがどんなお手伝いかと言うと、まず、大きな氷と水を大きなおけに入れます。そのおけに、缶ジュースなどを入れて冷やし、そのおけをテーブルの上に運んでいきます。冷たいタオルはおぼんに並べて運び、お菓子もかごに入れてから運びます。ここまでが準備です。そして、おみこしやだしが来ると、準備しておいた物を配り、同時に片づけもします。これでお手伝いは終わりです。

今年もこのお手伝いをしました。小学校六年生までの数年間続けることができました。でも、これから中学生になれば、部活などがあり、いそがしくなって、このお手伝いができなくなるかもしれません。そう思い今までの「お祭りボランティア」をふり返ってみました。

そして、このボランティアをやって良かったことがいくつか分かりました。一つは、人の役に立てたことです。もしかしたら、配った飲み物などによってお祭りに参加した人達の暑さをやわらげられたかもしれないし、お手伝いがあったから、おばあちゃん達も少し楽になったんじゃないかと思いました。もう一つは自分自身もたくさんのおみこしを学べたことです。いそがしい中で働いて自分が何をすべきがよく分かるようになれました。だからこれからもボランティアをしていきたいです。

笑顔あふれるボランティア

鹿児島県南九州市立中福良小学校6年 和田 聖麻

「よし、もつともつときれいにするぞ。」

この言葉とともにボランティア活動に取り組んだ。ぼくたちは白石神社のはきそうじ。周りを見れば落ち葉や木の枝でいっぱい。今からこの神社をきれいにして、気持ちよくしてやるんだと思うと、やる気が出てくる。去年もこの神社をきれいにした。去年はどのようにそうじをしたのか、どんな気持ちだったのか重ね合わせながら取組む。そう思っていると自然に体が動くのが分かった。ああそういうえば、あまり進んでできなかったな、余計な話をしたり、つかれたなど言ったりしていたことを思い出した。しかし今年は違うぞと思いつつ、はきそうじを始めた。

やっっていく途中、神社がだんだんときれいになっていく。ぼくたちの顔も笑顔になる。神社も笑っているようだ。あんなに落ち葉が落ちていたのに、あつという間にきれいになった。

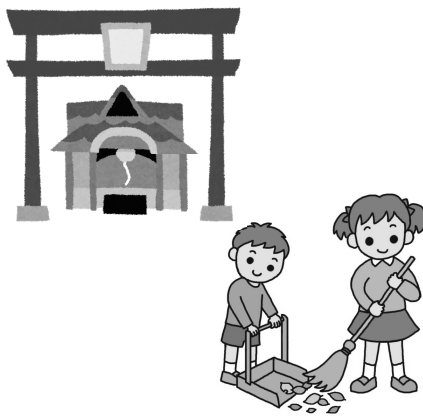
「やったね。きれいになったね。」

「すつきりしたあ。」

この言葉を待っていた。何とも言えない心地よさとともに、最高の笑顔であふれた。体を動かして何かをすることで体はつかれるかもしれないが、心は反対にすつきりとしたいい気持ちになる。これがボランティアなのだろう。

テレビでは、地震のがれきの中をそうさくのためにたくさんの

人が働いている様子を見ることがある。みんな必死でだれかのためにがんばっている。相手を思う気持ちが伝わってくるようだ。世界中の人が自分のことだけでなく、相手のことを考えて行動すともつといい社会になるのではないかと思う。ほんの少しの思いやりをみんながもつことで、笑顔があふれる世界になると思う。これからの未来がそうなつてほしいと願う。



【中学生賞】

私の成長

福島県棚倉町立棚倉中学校1年 沼田 南海

私は、今年初めて本格的なボランティア活動をした。その中で私の成長は、積極的に落ちていくゴミを拾うようになった。私が今までに活動したボランティアは、①公園のクリーンアップ②寿恵園でのお仕事体験③町内のゴミ拾い④小学生の引率、この4つだ。どれもとても楽しいボランティア活動だった。

私は「ボランティア活動」小学生のころはこの言葉がきらいだった。しかし、中学生に入ったすぐのころ、床にゴミが捨てられているのに、みんなは見ても見ぬふりをしていた。

私は「先生や親が見ているから」と言う理由ではなく、自分から進んでゴミを拾った。このときくらい「ボランティア活動」この言葉が好きになってきた。そして、中学生や高校生が町内のボランティア活動に参加する「ヤングボランティア」に入った。同級生は一人もない中で、先輩達とボランティア活動をした。私が「ヤングボランティア」に入った理由は、町民のボランティア活動を手伝えたい、また、将来、社会人になったときに役立つ、このような理由だ。

私は、今まで体験したボランティア活動の中で一番楽しかった活動は、寿恵園でのお仕事体験だ。午前中は、窓ふきや、ゴミはきなど、掃除を主にやった。午後は、寿恵園の方たちと折り紙をやったり、ぬり絵や、ふうせんバレーなどをやったりした。午

後は、とつても楽しい時間だった。最後は、ある夫婦が見送りをしてくれたのだ。私は帰るのが一番最後だったが私が帰るまでずっと話し相手になってくれた。私は、とつてもうれしい気持ちになった。そのときに「やっぱりボランティア活動をやっていて良かった。」と思った。

少しめんどくさいボランティアもあるけど、ボランティア活動はやっぱり楽しいと思った。私は、今度ボランティア活動をやるときは、友達もさそってやりたい。そして、これからもボランティアを続けていく。

私にとつてのボランティア活動

東京都品川区立荏原平塚学園8年 佐野 遙

私は、生徒会長として、またボランティア部としてボランティア活動を行ってきました。それぞれ感じたことがあります。

生徒会では、地域清掃を行いました。そこで会った地域の方に、「若い子がやってくれるのはありがたい」と言われました。

私は、自分が地域の役に立てたと分かり、喜びと誇りを感じました。また、地域清掃を行うことで地域の人と交流ができたのも良い経験になりました。だから、地域清掃は地域に貢献できるだけでなく、地域の人も交流を深めることができる、メリットばかりの活動だと思いました。この経験を通して私は、生徒会活動にもっと地域との交流を深める機会を作っていきたいと考えました。

ボランティア部では、主に二つの活動をしました。一つ目は、夏祭りのボランティアです。私は、お化け屋敷の準備と当日のお化け役をやりました。私は、このボランティアをする前に比べ、裏方の大変さが分かりました。子供から大人まで、どうしたら怖さや楽しさを感じてもらえるか試行錯誤しました。大変ではありましたが、何をするにも裏で働いてくれている人がいるのだと、ありがたみを感じることもできました。二つ目は、ラジオ体操です。朝の快晴の中やるラジオ体操は、とても気持ちが良い、朝であることを体から感じられ非常に良かったです。来年度も参加したいと思います。

このように、ボランティア活動は自分の為、人の為になるものだと思います。また、人とのつながりを深められる、素晴らしいものでもあります。来年度も積極的にボランティア活動に取り組み、生徒会として児童・生徒にボランティア活動に参加してもらえよう、考えていきます。



心をつなぐ掃除

山口県山口市立湯田中学校2年 竹下心

掃除が終わった後に、きれいになった自転車置き場を見渡し、胸の中に広がった達成感と充実感。今でも、はつきり思い出すことができます。

湯田中学校では、年に二回、V S活動という湯田地区の清掃活動を行っています。V SとはVoluntary Serviceの略で、その名の通り生徒が自発的に行っている活動です。そんなV S活動も昨年で二十一回目を迎え、湯田中の伝統的な活動の一つとなっています。

昨年の十一月に行われたV S活動で、私は駅の自転車置き場の清掃を行いました。掃除を始める前に駅を利用している年配の婦人から、

「ありがとうね。」

と満面の笑みで言われたのです。この出来事は、私にとって忘れられない大切な思い出となりました。私たちの掃除がこの笑顔をつくり出しているのだと思うと、心がぽかぽかと温かくなり、掃除を一生懸命しようと思えました。掃除の予定時間は、あつという間に終わり、溜まったゴミの量は目を見張るほどのものでした。最後に、自転車置き場を振り返り、胸に広がった達成感と充実感は計り知れません。掃除をして本当に良かったと心から思いました。

このような経験を通して変わったのは、私の掃除に対する考え

方です。掃除とは、ものをきれいにするだけでなく、私たちの心まで美しく温かくしてくれるものでした。そして、人と人の心をつなぎ、その人の顔に笑みを与えてくれるものでした。掃除を実際に行うことで知った、この感動を決して忘れず、これからの人生の糧にして行きたいと思います。

ボランティア活動を通して

千葉県栄町立栄中学校2年 松本 理乃

私は中学一年生の頃から様々なボランティア活動に参加しています。

二年生になり参加したボランティア活動は「赤い羽根共同募金」の募金を集めること、「ユニセフ」の募金を集めるため全校に見せる資料作りです。

赤い羽根共同募金では、地域の方がよくつかうスーパーマーケットなどに行き、多くの方に協力してもらえよう呼びかけました。するととても多くの方が募金活動に協力してくださり、たくさん募金を集めることができました。それ以外で、学校でも赤い羽根共同募金への協力を呼びかけたのですが、あまり集めることができませんでした。

その次に行ったのがユニセフの資料作りです。ここでは赤い羽根共同募金の時に、学校ではあまり集めることができなかったという反省点を改善するために「どうすればユニセフについて興味をもってもらえるか」ということを大切にして、資料作りに取り

組みました。ユニセフで集められた募金はどのように使われるのかなど、わかりやすく伝えられるようにまとめた結果、赤い羽根募金よりも多く集めることができました。

この二つの活動を通して、まず赤い羽根募金では地域の方とふれあい、たくさん笑顔や募金に協力しようという心にふれることができ、ボランティア活動は自分の心も温かくしてくれるものだということを学びました。

次にユニセフの資料作りでは、全校生徒のためだけではなく、自分自身もユニセフとは何か、何のために募金をするのか、など詳しく知ることができ、今まで以上にボランティア活動に興味をもつことができました。

人の役に立ち、自分の心も温かくなり、そして皆が笑顔になれる、そんなボランティア活動にこれからも参加していきたいと思いました。

V S活動を通して得たもの

山口県山口市立湯田中学校2年 山口 恭佳

湯田中学校では、自分たちが住む湯田の町をきれいにするV S活動という取り組みがあります。普段自分達が使う通学路や湯田のチャームポイントである足湯を掃除します。自分たちの町を自分たちの手できれいにすることは、とても素晴らしいことだと私は思います。

私は、この活動を通して湯田の町も自分の心もきれいにするこ

とができました。とても汚れていた所を見違えるほどきれいになったのを見るとがんばったかいがあったなと感じるので。そして、自分たちがきれいにしたこと地域の方々が気持ちよく使うことができ笑顔も生まれるのです。その笑顔で私もうれしい気持ちになります。このように私はV S活動を通してうれしきや笑顔を得ることができ、掃除をする素晴らしさを感じました。

それから、このV S活動では、掃除をすることだけではなく、あいさつの大切さも気づきました。私は湯田温泉駅を掃除しました。湯田温泉駅は湯田の門ともいえる場所です。たくさん人が降りる所です。私が掃除しているときもたくさん帰宅する人が降りてきていました。気持ちよく湯田に帰ってこれるよういつそう努力しました。そんななかで降りてきた一人一人に挨拶することも忘れずに行いました。

私たちが挨拶するとたくさんの方が返してくれ、感謝の言葉をいただくこともありました。感謝の言葉や挨拶は、私たちがげみともいえるものでした。

私はこのV S活動で、さまざまなことに気づき、やった後の感動と喜びを味わうことができ、湯田の町を自分たちの手で守って、こうと強く思いました。そして自分たちが普段しなければいけないことを発見し、自分を変えるきっかけとなりました。これからもV S活動を続け、自分たちで湯田をアピールしていきたいです。

【高校生賞】 普段体験できないこと

鹿兒島県立川辺高等学校1年 道野 はるか
私は、今月、川辺の寿光園という老人保健施設にボランティアに行きました。

最初、一年生と二年生と違う活動をしました。一年生の活動内容は、施設に週二回、通われているお年寄りと、話をするということです。

私は最初、なにを話していいか分からず、戸まどっていました。しかし、ふと頭の中に、将来のことが浮かびました。「看護師になつたら、こんな場面が毎日だよな。積極的に話さないと、将来、おどおどした看護師になってしまうな。」と。

そう思った私は、簡単なコミュニケーションからとりはじめました。やはり、第一声目は緊張しました。でも、徐々に、うちとけることができ、お年寄りの方も笑顔になってくれました。

その後、カレンダーの色塗りを一緒にしました。そこで、私が気づいたことがあります。それは、お年寄りの方の気持ちを考えて、色塗りのお手伝いをすることです。

「自分でできるから、手を出さないでほしい。」と、思う人や、「手伝ってほしい。」と、思っているお年寄りは様々だと思えます。どうすれば、お年寄りの気持ちを悪くさせないか。それは、やっぱり、自分から話しかけることだと思います。勇気を出して聞くことによって、私もお年寄りも、いい気持ちで活動すること

ができました。そのあと、リクエストがあり、高校の校歌を歌いました。お年寄りの方の中に川辺高校出身の方が何人かいらっしやうてその方々も一緒に口ずさんでくれました。

今回、このボランティアに参加したことによって、コミュニケーションで大切なことを知ることができました。これも、いましかなできない体験なので、また機会があつたら参加したいです。

繋ぐ笑顔

横浜創英高等学校2年 鈴木 優花

私の夢は社会福祉士になることです。その夢に少しでも近づくため、冬休みに地域の障がい者支援施設で、職員の方のサポートを行うボランティアをすることにしました。そして、とても大切な2つのことに気づきました。

初めのうち私は、緊張して利用者の障がいのある方々になかなか声を掛けることが出来ずにいました。そんな私に職員の方が、もつとたくさんの利用者さんと関わるようアドバイスをくださいましたが、やはり思うようにはいきません。けれど、「行動しなければ何も始まらない！」と思い、利用者さん一人一人に笑顔で挨拶をしました。

「こんにちは。今日は良いお天気ですね。」

すると利用者さんが、手を握って笑顔を返してくれたのです。

ハイタッチをしてくれる方もいました。私はこの時、「笑顔は人と人とが繋がり、分かり合うための大切なきっかけになるのだ」

と気づきました。自分が笑顔でないのに、他の人を笑顔に出来るはずがありません。

また、利用者の皆さんが楽しみにしていたカラオケ大会では、私自身がボランティアで来ているということ忘れてしまうほど楽器やダンスで盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。伸び伸びと明るく「今」を楽しむ皆さんの姿を見て、私がこれまで何気なく過ごしていた毎日が、かけがえのない一日の積み重ねであるということ、教えてもらったような気がします。

私が思うボランティア。それは、たくさんの人を笑顔にすることです。そのために必要なことはただ一つ、私自身が笑顔でいることだということに、今回のボランティアを通して気づくことが出来ました。心からの笑顔は誰にとつても、心を開いて繋がるきっかけになります。ボランティアを終え、私の夢は膨らみ、社会福祉士になりたいという思いが一層強くなりました。私の夢は、人を笑顔にすることが出来る社会福祉士になることです。



保育園ボランテアを通じて成長したこと

東京都立麹ヶ丘高等学校3年 上久保 美涼

私は保育園ボランテアを行いました。一歳児クラス、二歳児クラス、三〜五歳児縦割りクラスで子どもたちとふれあいました。一歳児、二歳児クラスでは、絵本の読み聞かせやごっこ遊び、水遊びなどをし、着替えの補助や寝かしつけを行いました。三〜五歳児縦割りクラスは、室内では折り紙、お絵描き、積み木やこままわしなど、園庭ではおにごっこやなわとび、砂遊びなどを子どもたちとともに楽しみました。子どもたちのお昼寝中には教室の掃除やおもちゃの整理整頓を行いました。

ボランテアを行って、保育士の大変さを感じることができました。常に子どもたちから目を離さず、一歩先のことを考えて行動する、一人ひとりを理解して接する、広い視野で子どもたちを見る・・・など、保育士のすごさを知ることができました。また、子どもと関わる上で大切なことは「子どもが主体」と学びました。子どもの意思を尊重してあげることの大切さを学ぶことができました。

ボランテアを通じて成長できたと思える点は、子どもの目線で見えて感じて考えることの大切さを知り実践できました。自分が見ている世界と子どもが見ている世界は異なります。子どもの目線の高さになって見ると、様々な危険が視野からはみ出ることを知り、見えているだろうと思っても子どもには見えていないことを学びました。そのため、周囲の大人が危険を教える必要がある

要があります。今回のボランテアでは、机の下に入った子どもに頭を上げるタイミングを教えけがをせずに済みました。

ボランテアでは、お金では買えないものを得ることができると思います。私が得たものは、経験と知識、そして感謝の笑顔です。ボランテアをして本当に良かったです。



平成27年度ふれあいボランティアパスポート参加校・団体リスト(3月1日現在)

参加児童生徒数47,420人

FVP申込数49,995冊

1	北海道	○函館市立東山小学校	91	新潟県	○柏崎市立第二中学校	
2		千歳市立白陽台小学校	92	○新潟県女子社会連絡協議会		
3		NPOまちの原・元氣	93	○長野県	○長野県長野西高等学校(通信制)	
4	青森県	弘前市若木児童センター	94	○秋田県	○秋田県立青山中学校	
5	岩手県	盛岡市立月が丘小学校	95		多治見市立根本小学校	
6		盛岡市立厚川中学校	96		多治見市立徳都中学校	
7	宮城県	仙台市立七北田小学校	97		○関市立金蔵小学校	
8		鹿角市立花輪小学校	98		関市立小倉田中学校	
9		鹿角市立花輪北小学校	99		関市立旭ヶ丘小学校	
10		鹿角市立平元小学校	100	岐阜県	関市立田原小学校	
11		鹿角市立十和田小学校	101		関市立武芸小学校	
12		鹿角市立末広小学校	102		関市立寺尾小学校	
13		鹿角市立大湯小学校	103		関市立武儀東小学校	
14		鹿角市立置木小学校	104		関市立武儀西小学校	
15		鹿角市立屋去沢小学校	105		関市立富野中学校	
16		鹿角市立八幡平小学校	106		関市立洞戸中学校	
17		鹿角市立花輪第一中学校	107		関市立武儀中学校	
18		鹿角市立花輪第二中学校	108	静岡県	袋井市立袋井南中学校	
19		鹿角市立十和田中学校	109		愛知県	愛知県一宮市立葉栗中学校
20		鹿角市立屋去沢中学校	110		愛知県立香和高等学校	
21		鹿角市立八幡平中学校	111	大阪府	○松原市立松原第二中学校	
22		山形県新庄市立新庄中学校	112		高知市立一宮小学校	
23		山形県立山辺高等学校	113	高知県	高知県立高知東高等学校	
24		山形県舟形町立舟形小学校	114	山口県	○山口市立湯田中学校	
25		山形県舟形町立舟形中学校	115		小郡市立味坂小学校	
26		青少年地域ボランティアサークル「ふなっ子」	116		小郡市立小郡小学校	
27		榑倉町立津波小学校	117		小郡市立御原小学校	
28		榑倉町立社川小学校	118		小郡市立三国小学校	
29		榑倉町立高野小学校	119		小郡市立大原小学校	
30		榑倉町立榑倉小学校	120		小郡市立東野小学校	
31		榑倉町立山岡小学校	121		小郡市立のそみが丘小学校	
32		榑倉町立榑倉中学校	122		小郡市立宝城中学校	
33	茨城県	茨城県水戸市立河和田小学校	123		小郡市立大原中学校	
34		阿見町立阿見小学校	124		小郡市立石中中学校	
35		茨城県立高ヶ浦親学校	125		小郡市立小郡中学校	
36		春日部市立豊春中学校	126		小郡市立三国中学校	
37	埼玉県	越谷市立中央中学校	127		福岡県立三井高等学校(福祉教養コース)	
38		白岡町立徳津中学校	128		踊る隣組	
39		栄町立安食小学校	129	福岡県	大牟田市立みなと小学校	
40		栄町立布鎌小学校	130		大牟田市立駿馬南小学校	
41		栄町立安食台小学校	131		大牟田市立駿馬北小学校	
42		栄町立竜角寺台小学校	132		大牟田市立元の原小学校	
43		栄町立栄中学校	133		大牟田市立大正小学校	
44		市原市立青葉台小学校	134		大牟田市立大正小学校	
45		港区立青山中学校	135		大牟田市立明治小学校	
46		○文京区立第八中学校	136		大牟田市立高取小学校	
47		品川区立小中一貫校日野学園	137		大牟田市立三池小学校	
48		品川区立小中一貫校在原平塚学園	138		大牟田市立羽山台小学校	
49		品川区立城南小学校	139		大牟田市立銀水小学校	
50		品川区立在原第五中学校	140		大牟田市立上内小学校	
51		目黒区立中目黒小学校	141		大牟田市立吉野小学校	
52		目黒区立第八中学校	142		大牟田市立倉久小学校	
53		目黒区立目黒中央中学校	143		大牟田市立橋中学校	
54		世田谷区立駒留中学校	144		福岡県立ありあけ新世高等学校	
55		杉並区立杉並第一小学校	145		伊万里市立南波多小学校	
56		杉並区立松蔭小学校	146		武雄市立北方小学校	
57		豊島区立早小学校	147		嬉野市玉町小学校	
58		荒川区立尾久八幡中学校	148		嬉野市立久間小学校	
59		荒川区立汐入東小にこにこすくーる ボランティアクラブ	149		嬉野市立塩田小学校	
60		板橋区立立中小学校	150		嬉野市立嬉野小学校	
61		板橋区立舟渡小学校	151		嬉野市立轟小学校	
62		練馬区立旭丘小学校	152		嬉野市立大野原小学校	
63		練馬区立光が丘第四中学校	153		嬉野市立吉田小学校	
64		八王子市立宮上中学校	154		嬉野市立大草野小学校	
65		昭島市立つじヶ丘南小学校	155		嬉野市立塩田中学校	
66		町田市立三輪小学校	156		嬉野市立嬉野中学校	
67		小平市立小平第六小学校	157		嬉野市立大野原中学校	
68		小平市立小平第七小学校	158		嬉野市立吉田中学校	
69		小平市立小平第八小学校	159		神埼市立神埼小学校	
70		小平市立小平第十四小学校	160		神埼市立西郷小学校	
71		小平市立学園東小学校	161		神埼市立登振小学校	
72		小平市立花小金井南中学校	162		神埼市立千代田西部小学校	
73		国分寺市立第七小学校	163		神埼市立千代田中部小学校	
74		東大和市立第三中学校	164		神埼市立千代田東部小学校	
75		武蔵村山市立第一中学校	165		神埼市立仁比山小学校	
76		武蔵村山市立小中一貫校村山学園	166		神埼市立神埼中学校	
77		東京都立芝商業高等学校	167		神埼市立登振中学校	
78		東京都立練馬高等学校	168		神埼市立千代田中学校	
79		東京都立久留米総合高等学校(全日制1年生)(夜間部)	169	長崎県	対馬市立仁田小学校	
80		東京都立麹ヶ丘高等学校	170	熊本県	玉名市立玉名小学校	
81		藤優学院高等学校	171		南九州市立中福良小学校	
82		藤村女子中学・高等学校	172	鹿児島県	鹿児島県立川辺高等学校	
83		横浜立新井中学校				
84		横浜市立岡村小学校				
85		横浜市立日隈山小学校				
86		○茅ヶ崎市立松浪中学校				
87	神奈川県	寒川町立寒川中学校				
88		神奈川県立新羽高等学校				
89		横浜創英中学校高等学校				
90		NPO法人湘南ライオンズ・みずな:学習支援プログラムますなプロジェクト				

※○:ふれあいボランティアパスポートフレンズ
教育委員会や学校が作成したオリジナルのふれあいボランティアパスポート
を使用して参加している教育委員会、団体や学校です。
※教育委員会
教育委員会として全小中学校に参加いただいています。

この冊子の作成に当たっては、NHK歳末たすけあいの配分を受けています。
後援：日本教育新聞社

平成 27 年度ふれあいボランティア活動感想文集

平成 28 年 3 月発行

認定NPO人さわやか青少年センター

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 7 階

認定NPO法人さわやか青少年センター分室

TEL : 03-6809-2795 FAX : 03-6809-2796

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : info@ssc-npo.or.jp